

2010 年度第 2 回 環境災害対応委員会 議事録

日時：2010 年 10 月 15 日 15 時～17 時

場所：東大理学部 1 号館 710 号室

出席者：松本 淳（委員長・議長）、吾妻 崇（日本活断層学会）、
石原正仁（日本気象学会）、宇根 寛（日本国際地図学会）、
大野博之（日本応用地質学会・環境）、小田啓邦（地球電磁気・地球惑星圏学会）、
小荒井衛（日本地質学会、兼地理情報システム学会目代邦康代理）、
須貝俊彦（日本地理学会・書記）、田所敬一（地震学会）、陶野郁雄（日本第四紀学会）、
中筋章人（日本応用地質学会・災害）、中村洋一（火山学会）、
真木雅之（水文・水資源学会）計13名

1. 2010 年前半の活動報告

2010 年 5 月の連合大会時に開催された前回議事録に基づいて、松本委員長から説明があった。

2. 2011 年度連合大会へ向けての本委員会に関するセッション提案

以下の 2 セッションについて提案がなされ、委員会として主催、後援することとなった。

1) 都市における極端気象（提案者：真木、資料配布）

提案母体・地球惑星連合環境災害対応委員会（松本）

協賛学会：水文・水資源学会（真木）、日本気象学会（石原）、日本地理学会（松本：
今後に承諾予定）

代表コンビーナー：松本、共同コンビーナー：真木・石原

提案セッションは、ユニオン（第一希望）、領域外（第二希望）

土木学会、に協賛あるいは後援依頼を検討。日本災害情報学会、日本自然災害学会
にも情報を流し、協賛あるいは後援の依頼をすることとした。

2) 人間環境と災害リスク

提案母体 主催：日本地理学会、共催：今年共催した日本第四紀学会・地理情報シス
テム学会・日本国際地図学会・日本地質学会に加え、来年は火山学会と環境災害対
応委員会（松本）が加わることとした。

提案セッションは、来年は一般、その後はパブリック・セッションなどの開催可能
性についても検討していくこととした。

3. 今後の活動

原則として連合大会時と、10 月（セッション提案締切日の 2-3 週間前頃）の 2 回開催とする方針が了承された。

4. その他

「大災害等の緊急対応をどのように考えていくのか？」について、宇根委員より問題提起があった。これに対し、中村委員より、「平時から活動基盤を作って準備を進めておくことが必要で、例えばハザードマップのセッションをつくるなどして、多学会が参加する場を設けておくことが重要」、との意見が出された。議論の結果、新たに「災害対応ワーキンググループ」、「環境対応ワーキンググループ」を組織し、大会でのセッション提案やその他の活動について当面は全体メーリングリストを活用して検討していくこととなった。欠席委員を含めた各ワーキンググループ(WG)メンバーの候補者は以下となった。欠席委員への依頼は委員長が行い、またこれ以外の委員についても希望があれば積極的参画を求めていくこととした。

- ・災害対応 WG (候補者)

火山—中村 (主)、地図—宇根 (副)、地震—田所、気象—石原、地理—須貝、
活断層—吾妻、第四紀—田力、水・水—真木、委員長—松本

- ・環境対応 WG (候補者) (?印は未定)

GIS—?、気象—?、第四紀—陶野>?、リモセン—近藤、
電磁気—小田、応用地質—大野、委員長—松本

以上